

第3次琴浦町男女共同参画プランの振り返り

1. 第3次プランにおける数値目標の達成度

○→目標達成 △→目標未達・前回調査より向上 ×→目標未達・前回調査より低下

基本テーマ1 笑顔輝くWLB（ワーク・ライフ・バランス）づくり

重点目標①ワーク・ライフ・バランスの意識づくり／重点目標②女性のキャリアアップ支援づくり

項目	H28	目標	R4結果	達成度	重点目標に対する評価
ワーク・ライフ・バランスを知っている人の割合	31.1%	50.0%	34.5%	△	・「男女共同参画推進企業のうち、イクボス宣言企業率」は前回調査から大幅に向上。 ・ワーク・ライフ・バランスについては、言葉の浸透はわずかに進んでいるものの、「女性のキャリアアップ支援づくり」の一環である、家事・育児と仕事の両立という点で、家庭の仕事の大半を未だに女性が担っていることから、ワーク・ライフ・バランスが進んでいないのが実態である。
男女共同参画推進企業のうち、イクボス宣言企業率	36.3%	50.0%	84.4%※	○	

※鳥取県男女共同参画推進企業 32 社、イクボス・ファミボス宣言 27 社（令和4年7月5日時点）

基本テーマ2 笑顔輝く地域づくり

重点目標③参画できる地域活動づくり

項目	H28	目標	R4結果	達成度	重点目標に対する評価
町の審議会等における女性委員の割合	36.0%	50.0%	38.5%	△	・「町の審議会等における女性委員の割合」から、方針決定の場への女性の参画は少しずつ改善されているが、低水準で止まっている。
「地域活動」において男女の地位が平等であると考える割合	33.2%	50.0%	自治会※ 30.8% PTA※ 38.7%	× △	・地域活動における男女の平等感は、自治会等の地域運営とPTA等の子どもに関する運営によって差はあるものの、前回調査から大きな変化はない。また、半数以上の女性は地域の役職は断ると回答しており、女性自身が地域活動の参画に対して現状消極的である。

※自治会 = 自治会や公民館行事などの地域運営、PTA = PTA や保護者会、子ども会などの運営

基本テーマ3 笑顔輝く家庭づくり

重点目標④協力しあえる家庭づくり

項目	H28	目標	R4結果	達成度	重点目標に対する評価
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対する割合	53.9%	60.0%	60.6%	○	・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対する割合は伸びている一方で、家庭生活における男女平等感はずか3割にとどまる。
家庭生活上で男女が平等であると考えている割合	16.2%	40.0%	32.5%	△	・現状、家庭の仕事の大半を女性がやっているのは明らかで、育児については男女間で役割分担意識に差があり、協力が進んでいるとはいえない。

基本テーマ4 笑顔輝く職場づくり

重点目標⑤平等に働ける職場づくり／重点目標⑥参画できる自営業の体制づくり

項目	H28	目標	R4結果	達成度	重点目標に対する評価
職場において男女の地位が平等であると考えている割合	22.7%	30.0%	37.7%	○	・「平等に働ける職場づくり」については、職場における平等感が進み、男女共同参画推進認定企業数も増えていることから改善の傾向が見られるため、継続して働きやすい職場環境づくりの推進が必要である。
男女共同参画推進認定企業数	22企業	30企業	32企業	○	・「参画できる自営業の体制づくり」については、半数の自営業者が、労働時間を決めたり、休暇制度を定め、育児・介護に対応した柔軟な働き方を進めている。

基本テーマ5 笑顔輝く心と身体づくり

重点目標⑦身体的性差についての理解と健康づくり／重点目標⑧一人ひとりを認める理解づくり／重点目標⑨性別による差別・暴力を許さない社会づくり

項目	H28	目標	R4結果	達成度	重点目標に対する評価
過去1年間にドメスティック・バイオレンス(DV)を受けたことがあると答えた人の割合	1.9%	5年間で0.5%減	2.6%	×	・「身体的性差についての理解と健康づくり」「一人ひとりを認める理解づくり」については、「ジェンダー」の認知度(言葉や内容を知っている)が約半数まで向上しており、多様な性の浸透が進んでいる。 ・「性別による差別・暴力を許さない社会づくり」につい

					ては、DV 被害が前回調査から増加しているため、性別にかかわらず互いを認め合える社会づくりや、被害を受けたときの相談体制の強化を進める必要がある。
--	--	--	--	--	---

基本テーマ6 笑顔輝く男女共同参画意識づくり

重点目標⑩ 全町的な広がりを持った男女共同参画意識づくり／重点目標⑪ 子どもの頃からの男女共同参画意識づくり

項目	H28	目標	R4結果	達成度	重点目標に対する評価
社会全体で男女の地位が平等であると考える割合	19.0%	25.0%	19.7%	△	・「社会全体」の男女平等感はずかしく向上。一方で「学校教育」は低下し5割未満。地域、教育の場における啓発活動を推進し、より一層意識づくりに取り組む必要がある。
「男女共同参画社会」を知っている町民の割合	50.4%	60.0%	43.6%	×	
学校教育が男女平等だと考える人の割合	63.6%	75.0%	49.9%	×	

2. アンケートから見える主な課題

(1) 家庭における性別的役割分担の残存

- 家庭における仕事（「食事のしたく」「食事の片づけ」「掃除」「洗濯」「日常の買い物」）の大半は女性が担っており、子どもに関すること（「子どもの世話」「子どもの学校活動・行事への参加」）については、男性は分担していると答えた割合が高い一方で、女性は女性自身が担っているとの回答が多く、認識に差があった。家庭内の役割が女性に偏っていることについて、不満に感じている割合は男性より女性の方が高い。
- 女性の労働力率が高い本町において、家庭の仕事も未だに女性が多く担っているという現状も踏まえると、女性にとって家庭内外の仕事以外で使える時間が少ないことが推測できる。地域活動に関するアンケート項目において、地域の役職に推薦された場合、半数の女性は「断る」と回答しており、その理由で最も回答率が高かったのが「時間的余裕がないから」だった。
- 女性が自身の時間を確保し、さまざまな場面で活躍できる環境をつくる必要がある。そのために必要なことは、家族間でのコミュニケーションを増やし、互いに協力し合うことだと回答結果が出ている。

(2) 暴力被害の増加

- 配偶者やパートナー、恋人などから暴力（言葉による暴力、精神的な暴力を含む）の被害を受けたことがあるかどうかについて、1年以内に暴力を受けたことがある人は2.6%（13人）だった。前回調査は1.9%（11人）で、うち全員が女性だったが、今回は被害を受けた人のうち約4割は男性であった。
- 被害を受けたと回答した人のうち、男性は40%、女性は11.6%が誰にも相談していない。
- 性別にかかわらず、被害者を減らすこと、被害を受けた人が相談しやすい環境をつくることが今後重要である。

3. 総括

- ・ 第3次プランで掲げた目標のうち、「地域づくり」「家庭づくり」「心と身体づくり」「意識づくり」に課題が残った。
- ・ 外で働く女性が増えているなかで、未だに女性に偏りがちな家庭の仕事をもっと家族間で協力し合うことで、女性の負担を軽減させる必要がある。
- ・ 地域活動に女性が参画しやすい基盤をつくるためには、性別に関係なく、一人ひとりの声に耳を傾け、女性も意見しやすい環境をつくる必要があると考える。
- ・ 誰もが暴力を与える側にならないように、性別にかかわらずすべての人の人権を尊重できる町に変えていくため、小さな頃からの教育、地域内での啓発活動を推進する必要がある。また、被害者をいち早く救済できるように、相談しやすい環境を整えることが大事だと考える。
- ・ 「職場」における第3次プランの目標は達成しているが、アンケートの回答からは、誰もが働きやすい職場を推進するために企業への啓発を行うことが行政の役割として最も期待されており、企業への働きかけの強化が求められる。